

## 校歌の中に何がある？

48期生

### I テーマ設定の理由

我が家では、父と私が同じ小学校に通っていたこともあって、去年の冬のある日、校歌を皆んなで歌っていると、父が「そういえば、小学校・中学校・高校、どの校歌にも『生駒』という言葉が入っている。」と言った。吹田市出身の父はそうだったが、豊中市出身の母は「六甲と千里丘陵だった。」と言う。隣接した市であるにもかかわらず、校歌に出てくる地名に違いがある事に気付き、おもしろそうなので大阪府下全体で調べてみたいと思った。

### II 研究方法

- (1) 予備知識 研究を始める前に、ある程度「生駒山」「葛城山」などの事を知っておく。また、予想もたてておく。
- (2) 調査① まず、手始めに吹田市教育委員会に行く、または問い合わせて、吹田市の公立中学校全18校分の校歌を教えてもらえるかを尋ねる。  
教えてもらえる場合は(4)、教えてもらえない場合は(3)へ。
- (3) 調査② 各市町村の教育委員会で教えてもらえない場合は、地図上にメッシュを引き、その中から何校かをピックアップして、電話または手紙で校歌を教えてもらう。(5)へ。
- (4) 調査③ 吹田市教育委員会で教えてもらえたら、他の市町村の教育委員会にも返信用の切手、封筒を同封した上で、資料提供の依頼をする。その時ついでに、その市町村の地図も送ってもらう。
- (5) 調査④ 校歌を教えてもらえたら、地名・山名・河川名等の出てくる回数、率を集計する。
- (6) 分析 地名・山名・河川名等を項目別に分布を書き、その分布図から特徴を見出す。

### III 研究内容

#### 1 回収状況

吹田市教育委員会に行ったところ、校歌を教えてもらったので、他の市も、同じ方法で、教えてもらう事にした。ただし、高槻市・守口市・門真市・寝屋川市・八尾市・岸和田市に関しては、校歌を保存していない等の理由で、各校に直接教えてもらう事になった。また、大阪市に関しては、各区から2・3校ずつ選び、直接教えてもらう事になった。

(送った手紙の内容)

・教育委員会

研究の簡単な内容、全公立中学校の校歌・校歌の制定年月日・創立年月日が知りた

い、各市町村の地図が欲しい等を記した。

・各公立中学校

研究の内容、その学校の校歌・校歌制定年月日・創立年月日を知りたい等を記した。

(送った手紙の数)

175通

(9月1日までに返送された手紙)

97通(その後、何通か返送された。)

回収率は約55%

(資料提供の依頼をした学校)

397校(大阪府下には公立中学校が約460校ある。)

(9月1日までに、資料を得られた学校)

261校

回収率は約66%

(切手代、コピー代、封筒代等、使ったお金)

34,620円(大人になったらちゃんと親にかえす)

そのうち、返送されなかった手紙を金額に換算すると、6,530円。

## 2. 校歌に出てくる地名

送ってもらった資料から、地名等の出てくる校数、率を集計したところ、次のような結果がでた。

また、主なものはグラフ化した。

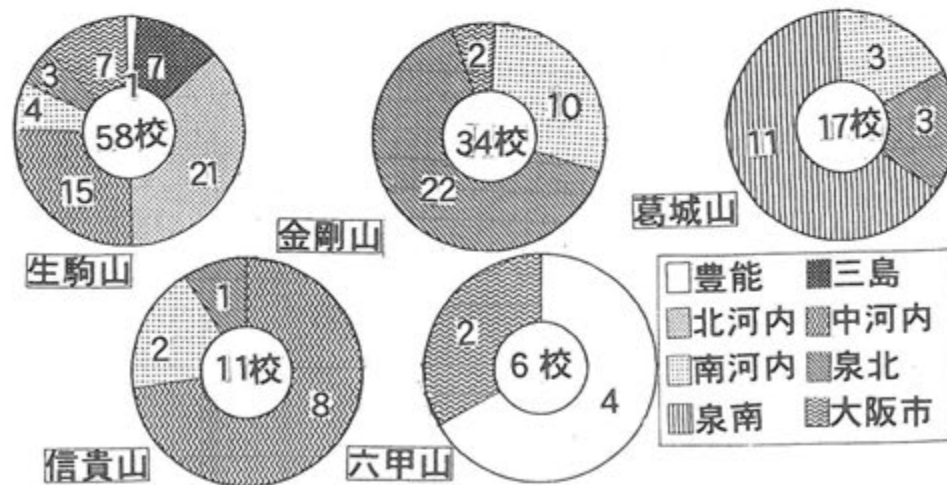
・山 141校(1校で2つでてくる場合、全部で1校と数える)約54%

生駒山…58校(261校中)約22% 金剛山…34校、約13%

葛城山…17校、約7% 信貴山…11校、約4%

飯盛山…9校、約3% 六甲山…6校、約3% その他…27校

飯盛山は、北河内にしかでてこないもので、グラフ化しない。



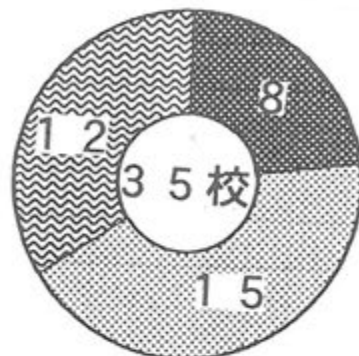
▲図1 主な山

・川 66校、約25%

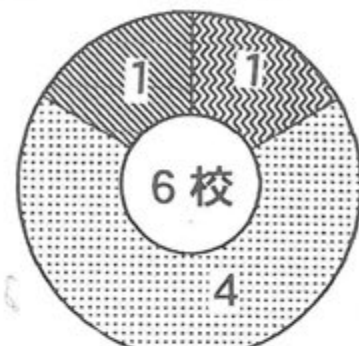
淀川…35校、約13%

大和川…6校、約2%

その他…25校



淀川



大和川

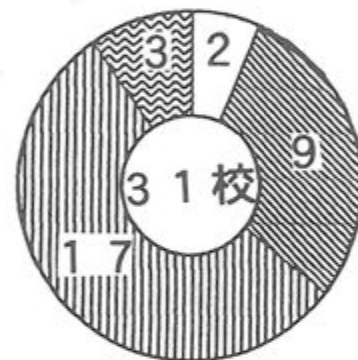
▲図2 主な川

・茅渚の海 31校、約12%

校歌を見ていると「茅渚の海」という言葉が多くでてくる。

茅渚の海とは、(旧国名で)和泉国と淡路国との間の海の古称のことである。現在の、大阪湾南部にあたる。

これは、地名とは直接関係ないが、大阪ならではの言葉だと思うし、おもしろい分布ができそうなので、分布図も書いてみようと思った。



茅渚の海

▲図3 茅渚の海

・その他含まれていた地名

河内(河内野なども含む)…31校、約12%

千里(千里の丘なども含む)…14校、約5%

難波(難波津、浪速なども含む)…13校、約5%

和泉(和泉平野なども含む)…13校、約5%

他、北摂、三島なども多くでてきた。

・地名がでてこない

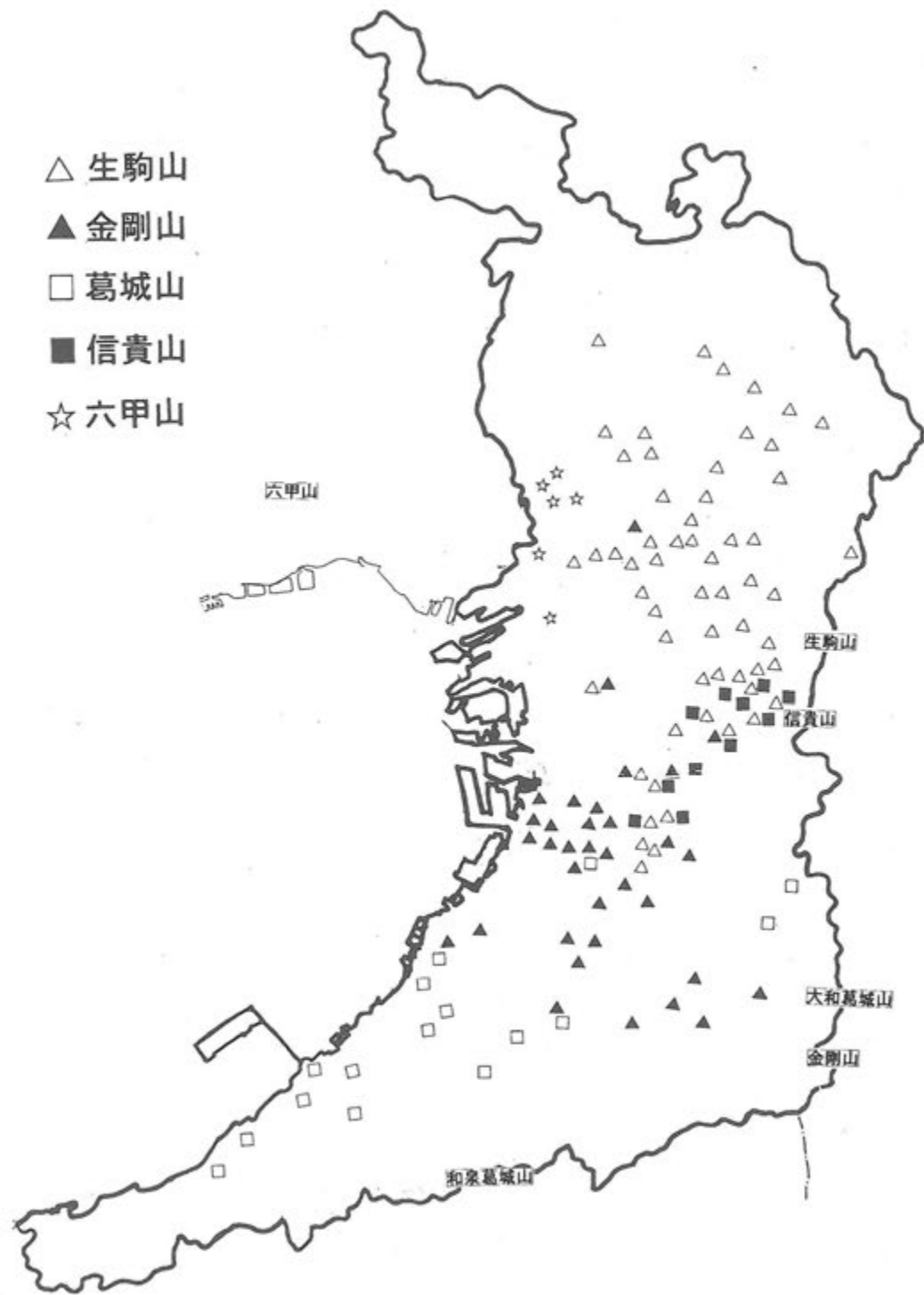
資料を送って戴いた261校の中でも、校歌に地名がでてこない学校があった。全部で32校あり、全体の約12%にあたる。

## 3. 分布

ここで、研究内容をひとまとめするという意味で、分布図をかこうと思う。地名をすべて図に記すと、何が何だかわからなくなると思うので、集計した中でも、分布に特徴のありそうな、山、川、茅渚の海にしぼろうと思う。

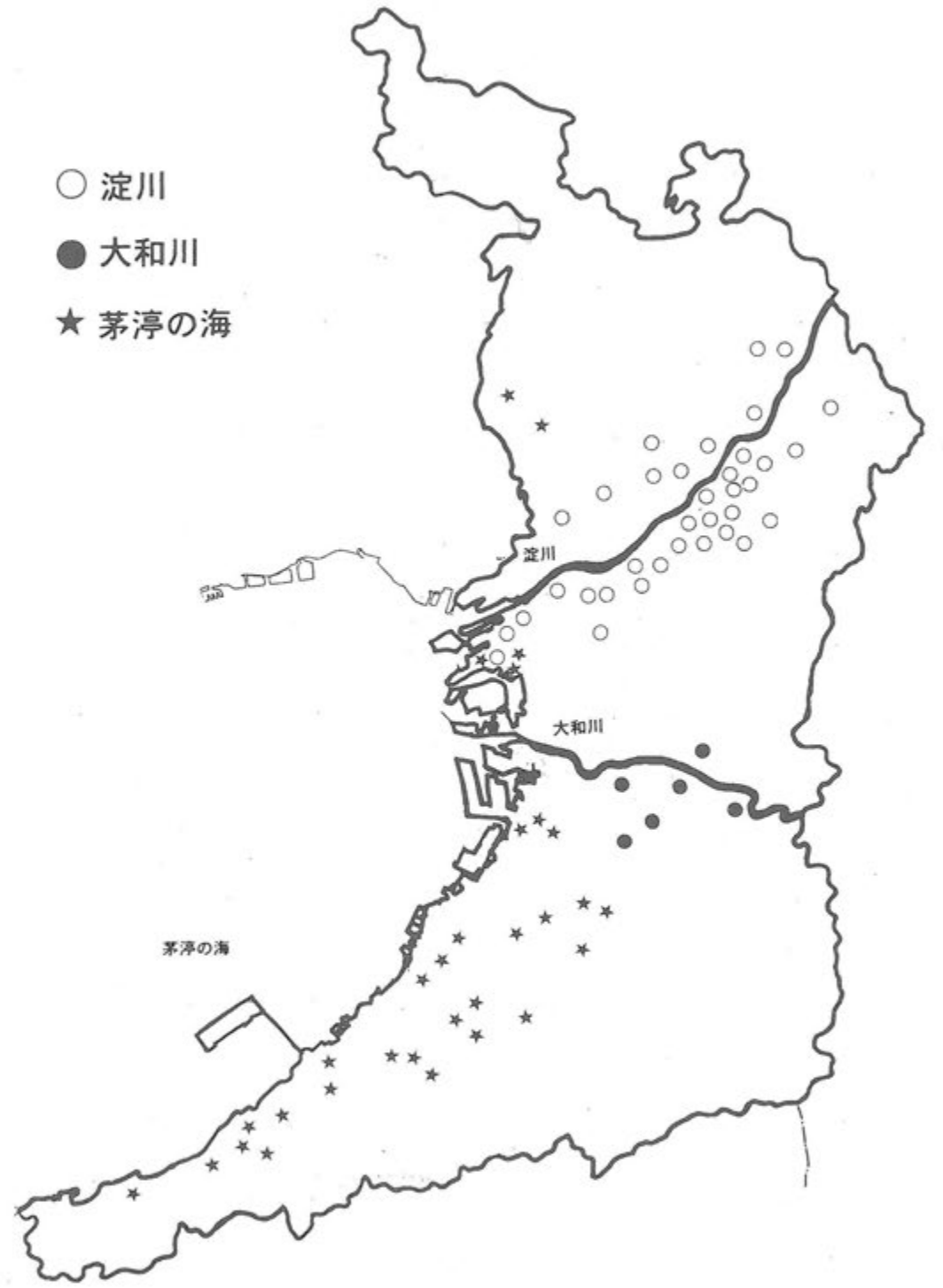
山は、特に数の多かった生駒山を含む6つの山の分布、川は淀川と大和川の分布を記すことにする。

- △ 生駒山
- ▲ 金剛山
- 葛城山
- 信貴山
- ☆ 六甲山



▲ 図4 山の分布

- 淀川
- 大和川
- ★ 茅渚の海



▲ 図5 川・海の分布

#### IV 結論(考察)

グラフと分布図を見ると、分布の特徴がわかる。まず、山と川の分布の違いである。例えば、生駒山と淀川。生駒山のほうは、ふもとはもちろんのこと、遠くは豊中のあたりまで、分布が広がっている。それに比べ、淀川のほうは、流れに沿うような広がりのない分布になっている。これはやはり見え方の違いが関係すると思う。山というのは普通、どんな建物より高い。つまり遠くからでも見ることができる。しかし、川のほうは、普通足もとを流れている。建物が建っていたりすると、川は見えない。従って、遠くからでも見えるものは、分布も広がっていることになる。これは、海の分布の特徴にもあてはまる。海は足もとにあるが広大なので遠くからでも見えるからである。

また、葛城山の分布であるが、葛城山が3つあるのでわかりにくい。大和葛城山、和泉葛城山、南葛城山の3つで、大和葛城山が一番高く有名だが、地図には普通和泉葛城山しかのっていない。葛城山の分布は、というと、泉南のあたりに散らばっていて、少し南河内のあたりにも分布している。歌詞には葛城山としかでてこないの、はっきりとはわからないが、泉南の葛城山は和泉葛城山、南河内の葛城山は大和葛城山ではないかと思う。ただ、その3つの葛城山は金剛山を含め、葛城山脈とよばれているので、葛城山脈の分布と考えてもいいかもしれない。

全体的にみると、ローカルで地元でないとうわからないような地名から、誰でも知っているような地名までいろいろあった。

#### V まとめ

今回の自由研究は、研究の内容はもちろんのこと、他にも沢山のことを学んだ。大阪府にある市町村の位置や公的施設への依頼のしかたなど。もちろん、快く引き受けて下さる所ばかりではなかったし、始業式ぎりぎり届いた所もあった。だが、それでも送って下さった所があったからこそ、この研究をここまで進めることができた。

この研究に際して、夏休み中ながらも資料を送って下さった教育委員会、及び中学校の方々、指導教官の先生、最後まで手伝ってくれた母、そして、毎日切手を売り、手紙を配達して下さった郵便局の方々に感謝の意を表する。

#### ・参考文献

- ・各市町村教育委員会及び中学校が送って下さった資料の数々
- ・「中学校社会科地図」帝国書院
- ・「旅に出たくなる地図」帝国書院
- ・「大阪府都市地図」エアリアマップ昭文社